



〈自動化技術をベースに自社製品を拡充〉

業界注目の若手社長が 目指すのは人づくり

幅広い分野の精密部品を製造しながら、自社製品の開発を進める伊藤精密製作所。率いるのは、良くも悪くも海がいまの自分を決めたという伊藤康裕。「モノづくりは人づくり」と経営に取り組む社長の伊藤に、会社のビジョンやモノづくりにかける想いを聞いた。

夢中になって好きなことに
チャレンジしろ。
何度も限界ギリギリに
チャレンジすれば、
必ず限界を超えられる。

Profile 伊藤 康裕 (いとう やすひろ)

1966年、岐阜県生まれ。千葉工業大学工学部工業経営学科を卒業後、日本電気ファクトリーエンジニアリングに7年間勤務。1998年、(株)伊藤精密製作所に入社し、経営企画室長を務める。2003年、代表取締役社長に就任。

特徴は 自社製品開発できる技術力

――事業内容を教えてください。

伊藤…電子通信機器、水栓、ガス機器、自動車、エアコンなどの部品を主に切削加工で製造しています。その他

にファクトリーオートメーションに関する自社製品があります。

――各分野で扱っている部品は、具体的にはどのようなものですか？

伊藤…通信関連では、衛星放送受信用のパラボラアンテナの受信機の部

品、それから携帯電話の基地局に使われる部品も手がけています。水栓関連ではキッチンやバスルームで用されるシングルレバー混合栓や、サームスタットシャワー水栓の部品などが多いですね。自動車関連で最近、製造しているのはエンジンオイ

――自社製品について教えてください。

伊藤…加工が終了した製品にキズがつかないよう保管する装置「ダコン

――「ダコンアンシン」とはどんな装置なんですか？

アンシン」を製造しています。今のところ売上全体の数パーセントをしめる程度ですが、今後大きな期待が持てます。



伊藤…「ダコンアンシン」は、各種工作機械で加工された製品を一つ一つ丁寧に専用ケースに蓄積する装置です。製品を人間の手で、一つ一つと置くように蓄積しますから、製品にキズが付きません。弊社ではすべての機械に「ダコンアンシン」を設置しており、効果はすでに弊社内で実証されています。

――具体的にどのような効果があるのでしょうか。

伊藤…キズがつかないので不良品が減りますし、製品を大量に蓄積できますから長時間の連続運転が可能になります。「ダコンアンシン」は、平成17年度に岐阜県中小企業支援センターの事業可能性評価事業において、Aという最高の評価をいただきました。

――御社の強みは何でしょうか。

伊藤…第一にNC機械、マシニング

最初は抵抗があったが、 自然に経営者になっていた

――伊藤さんは経営者になることは早くから決めていたのですか？

伊藤…物心ついた頃から二代目と言われていたので、会社を継ぐことを意識していました。小さい頃から工場を見ており、モノを作ることに違和感はありませんでしたが、そのまingleルに乗って経営者になることには少し抵抗がありましたね。

モノづくりは人づくり

――入社したときの印象はいかがでしたか。

伊藤…以前勤務していたファクトリーオートメーション関連の会社では、社会人としてのマナーとモラルを厳しくしつけられたんですが、こちらに入社してからは、その点で

――大学時代はどうでしたか。
伊藤…大学に入った頃は情報関係に興味がありました。会社のことも考えていましたから、経営工学を専攻したわけです。でも地元を離れて関東の大学に行ったのは、周りから束縛されずに自由に自分のやりたいことにチャレンジしたかったから。その中で自分の夢を探し求めたいという気持ちがあったんです。実際、地元から離れてみると自由になった気がしました。

――一度、別の会社に就職されていますね。

伊藤…私が就職したのはファクトリーオートメーション関係の会社です。うちの仕事は部品加工がメインだから、あえて違う業種の会社に行きました。

――社長になるまでの経緯を教えてください。

伊藤…入社して1年間、経営の勉強をさせてもらいました。その後、ITバブルがはじけた頃、とても苦しい時期があったんです。金融機関などと相談して、「会社を再構築しよう」ということで、私が社長に就任しました。36歳でした。想定していたステップアップからすると、少し早かったですね。

ギャップを感じました。仕事の技術やノウハウはしっかりしているのですが、マナーとモラルという点では弱い部分があったのです。

――やはりマナーやモラルが重要なのでしょうか。

伊藤…格好つけるわけじゃありませんが、人間性を大事にしたいと思っています。たとえば、「伊藤精密製作所の人間は素晴らしい」と言われるようにしたい。

今年、高校生が2名入社するのですが、その親御さんが「ぜひとも伊藤精密製作所に行きなさい」と後押ししてくれたんです。地元の高校生なのですが、「大手企業に就職しなさい」と言う親御さんが多いなかで、弊社を推薦してくれたことが大変うれしかった。そのような評価を受けるためには業績が良いことはもちろんですが、社会人としての基本である社員のマナーやモラルをきちんとするべきです。やはり、「モノづくりは人づくり」なんだと私は思います。

社員が輝いている姿を見たい

――社長として大切にしていることはありますか。

伊藤…コミュニケーションを最も大切に考えています。社外、社内問わず、情報をうまく伝えないと仕事はスムーズに進行しません。とくに社内でのコミュニケーションは努力次第で向上できますから、自分から率先してコミュニケーションを図るようにはしています。

――具体的に実行したことは何ですか。

伊藤…入社した当時、情報の流れがよくない部分があったので、情報の流れを洗い出して一本化し、製造と営業のコミュニケーションを円滑にしました。

The Management Data File 経営者データファイル	
お名前	伊藤 康裕
生年月日	1966年5月13日 岐阜県 生まれ
身長	173cm
体重	67kg
平均睡眠時間	5.5時間
平均起床時間	午前6時
趣味	サーフィン、 スノーボード、ゴルフ
乗っている車	ランドクルーザー100
おススメ本	「生き方」稲盛和夫
家族	妻 長男
今までに訪れた国	7カ国
座右の銘	感謝
購読雑誌	プレジデント
尊敬する人	父親、孫 正義
今日の財布の中身	56000円
好きな食べ物	焼肉
嫌いな食べ物	なし

伊藤精密製作所が開発したロボットシステム



よる金属加工です。私の担当機は5台あり、6名の部下とともに加工の段取り、出来高数のチェック、機械のトラブル対応、部下への指示など加工に関するすべての仕事をしています。



伊藤精密製作所 製造グループ
第一製造チーム チームリーダー
服部 達哉
はっとり たつや

伊藤精密製作所に入社して13年目の服部達也。現在、モノづくりの難しさと楽しさを同時に感じながら、6人のメンバーを率いて製品作りに没頭している。服部氏に、現在の仕事、モノづくりへの熱意、仕事のやりがいについて聞いた。

服部：最初はとうすれば良い結果が出るか、わからなかった。同じ製品を作っても毎回、同じようにできないんですよ。何度やっても、その原因がわかりませんでした。

服部：「上に確認してもらったんですが、それでもすぐにはわからない。わかるまで教えてもらえばよいのですが、それにもある程度の時間が必要なんです。上司や同僚に相談した後の実践の中で、今までわからなかったことが、わかる瞬間がある。その瞬間がうれいすね。」

—— 具体的にはどのようなことで
すか。

服部：特に刃物のことが全然わからなかった。自分で刃物を作ったり、位置を定めたりすることが、一番大

感じる
ことがあり

服部：自分で作り方を工夫するので、工夫次第で製品がさまざまな顔を見せるんです。それを見ると、仕事の難しさと同時に楽しさを感じます。そうしながら納得できる製品を作れたときには、本当にうれしいですね。それから、チームの仲間が

事なところなんです。入社して5年過ぎた頃かなあ、「こう工夫すれば、こうなる」と原因と結果がわかるようになったのは。それからは苦勞という感じではなく、モノづくりが面白くなりました。

ますが、そのときはやりがいを感じます。

――社風はどのようなものですか。

服部：業務が細かいマニュアルで決められているのではなく、現場の担当者の考えで仕事を進められますので、自由な社風だと思います。それから、上司や同僚などと自由に意見を交換できる。コミュニケーションしやすい会社だと思いますね。社長が積極的に現場の意見を聞いてくれるので、話しやすいですね。

服部：第一の目標は不良品をなくすること。品質を第一に考えながら、加工機械の稼働率を向上させていきたい。仕事の改善に関する社内の賞がありますから、是非とも、それを獲得したいですね。私は負けず嫌いなん

服部・モノづくりをしていると、自分で考えて製品を作る喜び、それを使う人に使ってもらえる喜びがあります。若い人にも、ぜひモノづくりの楽しさを味わってほしいですね。

※ **旋盤(せんばん)**
機械加工で最もよく使われる工作機械の一つ。工作物を回転させ、往復台上に固定した刃を前後左右に動かしてこれに当てて切削する工作機械。ねじ切り・穴あけなどにも用いる。

夢中になって
チャレンジしてほしい

—— 学生時代にサーフィンに熱中
したと聞いています。

——モノづくりに対する想いを聞かせてください。

伊藤：中期的には、まずは現状の仕事で収益力を高める。その流れの中に自社製品があります。たとえば中国と比較すると、人件費などのコストでは勝てない。ですから、生産技術に詳しい人材を育成していきまゝす。技術的なノウハウを蓄積して、他社とはひと味違う生産技術を伸ばしていけます。それによって自社製品の開発をして、その売上を伸ばしていきたい。

生の大半を会社で過ごすわけだから、そこが楽しくなければ、社員の人生活も楽しくならない。朝起きて会社に行くのが楽しくければ、いいですよ。年輩の方では、そういう方が多いのですが、若い方ではそうもいかない面もあるようです。私自身は会社は大きなファミリーだと考えていますから、少しでも楽しくできるようにしていきたいですね。

した（笑）。良い仲間とも出会えて、楽しかったですね。

——サーフィンに熱中したことは
今に活かされていますか。

伊藤：「具体的にこれだ」とは言えないですが、熱中した経験が今に活かされていると思います。たとえば、

台風が接近し、波が高いハードなコンディションの中でサーフィンをやるのは怖いんですが、凄いいスリルを味わえるんです。そこに挑んでいく中で、自分の限界を知る大切さを学びました。

——限界を知ることが重要なので
すね。

伊藤：自分の限界を知ること、大切なところでブレーキをかけられるようになる。また、限界に近いところで、「この先にもう少し行ってみよう」と夢中になって練習するうちに、限界を超えることができる。プロのスポーツ選手は、そのような限

と思います。やはり、夢中にな
とから得るものは大きいですよ。

—— 学生へのアドバイスをお願いします。

伊藤：とにかく夢中になれることを趣味でもスポーツでも何でもよいから作ってください。夢中になってトコトンやり尽くすと、それが人生のなかで活きてくる。やはり社会にでたから自由にできる時間は少ない。学生のうちは、何も考えずに夢中になれる時間があると思います。ぜひステキなことに夢中になってください。

所在地 ● 岐阜県海津市平田町今尾1663-1
設立 ● 1967年(昭和42年)9月

資本金 ● 1600万円
事業内容 ● 切削や鍛造による電子機器、水栓、ガス機器
などの部品製造と生産自動化装置の開発・設計・製造・販売
社員数 ● 約100名
URL ● <http://www.smiling.co.jp>

就職情報は
コチラ

※ **NC [Numerical Control]**
「数値制御」の略。職人の経験や勘に依存していた工作機械の操作を、数値によって自動制御すること。その仕様の機械をNC工作機械という。

※ マシニングセンタ
【machining center】
複合的な加工を行なう工作機械の一種。おもに切削加工を目的としている。多数の切削工具を有し、コンピュータ数値制御により加工工具の交換、機械加工を自動で行う。